

# 公益財団法人対がん協会RFLプロジェクト未来研究助成事業研究最終報告書

1. 研究機関名 東海大学
2. 研究期間 2012年11月1日～2014年3月31日
3. 研究課題名 小児がん診療における相談支援強化に向けたピアサポートの現状と  
ピアサポーター養成のあり方に関する研究
4. 研究代表者 井上玲子
5. 研究者所属 健康科学部看護学科准教授

## 6. 研究概要

小児がん親の会で活動する家族のためのピアサポーター養成研修会を開催することを目的に、段階的に調査を実施した。第1段階として2012年12月、小児がん親の会のピアカウンセリングの現状とピアサポーター養成研修会へのニーズを明らかにすることを目的に、全国小児がん親の会29団体の役員127名に調査を実施した。結果、82人の協力が得られ（回収率64.6%）、研修会への興味・関心、参加へのニーズは7割以上が抱いているにもかかわらず、小児がん特有の研修会が実施されていない現状が明らかにされた。第2段階として2013年7月、全国小児がん親の会で活動している役員に対し、ピアサポーター養成研修会推進協議会設立の協力を求めた。結果、9団体15名の役員の協力を得た。3回の会議をもって研修内容の概要を作成した。第3段階として2013年11月、国立成育研究センターを会場に2日間のプログラムで「小児がん親の会ピアサポーター養成研修会（パイロットスタディ）」を開催した。参加人数、研修内容、参加費、会場設定、講師および講義の内容等、課題、修正点を抽出した。

## 7. 研究結果

### 【第1段階】2012年12月に全国の小児がん親の会の代表者へニーズ調査を実施

「小児がん親の会におけるピアカウンセリングの実態調査」の結果、女性74人(90.2%)、男性8人(9.7%)で、子どもの現在の病状は治療中32人(39.0%)、治癒29人(35.7%)、死亡11人(13.4%)であった。ピアカウンセリングは81人(99.7%)が実践していると認識しているが、17人(21.5%)しか研修会に参加した経験を持たなかった。

研修会は57人(69.5%)が必要と感じており、内容は「小児がんの基礎知識」「コミュニケーション技術」を希望している者が多く、さらに講師には「医師」「看護師」「ソーシャルワーカー」「臨床心理士」「行政職」が適当との意見が見られた。研修会日程は「週末2日間」が妥当、参加費は「できれば安価」が最も多い希望としてあげられた(資料1)。

## 【第2段階】「小児がんピアサポーター養成研修会推進協議会」を設立

全国小児がん親の会から有志を募り、9団体15名からの賛同を得て「ピアサポーター養成研修会推進協議会」を設立した（資料2）。

## 【第3段階】「小児がんピアサポーター養成研修会」の開催（資料4）

2013年11月9日（土）～11月10日（日） 国立成育医療研究センター

2014年2月1日（土）～2月2日（日） 京都大学付属病院

2014年10月11日（土）～10月12日（日） 国立成育医療研究センター

2015年2月7日（土）～2月8日（日） 京都府立医学部付属病院

## 【第4段階】参加者によるフォーカスグループインタビューおよび参加者アンケート

第1回フォーカスグループインタビューより、

- ・内容は、ピアサポーターには医学的知識は概要でよい。しかし晩期障害についてピアサポーターの多くが質問を受けるので、詳細な内容が必要。治療の選択、がん登録、治験について知識が必要である。
- ・患者のQOLや生活の関わる内容として、最近の治療状況に合わせて看護職による講義が必要である。
- ・心理的知識は、ピアサポーターが陥りやすい内容が必要である。
- ・社会的資源は、小児がんに関わる社会資源を、時系列に説明する必要がある。

第2回フォーカスグループより、

- ・開催場所は、東西の2カ所で開催することが望ましい。今後は拠点病医院を中心に輪番で研修会を開催することがピアサポーターの広報にもつながる
- ・開催資金は、スポンサーを募ると同時に自ら活動しながら資金獲得に動くことが浸透につながるが、最低の参加費を徴収していく。
- ・主催者団体のあり方は、組織化することが望ましい。そのため役割分担を明確にしていく。
- ・参加者は15名程度が望ましく、各団体1名を目安にしていく。

## 8. 今後の研究継続と課題

本研究で開発された「小児がん家族のためのピアサポーター養成研修プログラム」の内容をテキスト版として『小児がんピアサポーターガイドブック』を出版予定である。3年をめぐりにプログラムの評価に取り組み、全国小児がん拠点病院を中心に開催し、定例化予定である。